

1 効果的な連携を進めるためのしくみを工夫する

学校が家庭や地域社会と連携して子どもの豊かな心の育成を図っていくためには、それぞれが、道徳教育に果たす役割を十分に認識する必要がある。家庭や地域の人々は、誰もが地域を大事にする子どもを育てたいと願っている。そこで、学校が家庭や地域社会に担ってほしい役割を伝えながら、地域全体を組織化していくことが重要になってくる。

そのための工夫として、次のようなことが考えられる。

学校として目指す子ども像を示す

学校は、家庭や地域の特色や願いを捉え、学校として目指す子ども像を、全教師で共通理解するとともに、学校の通信や保護者会、地域の人々との懇談会などで伝えていくことが大切である。その際、目指す子ども像が、家庭や地域の人々に分かりやすく、親しみやすく、共感できる内容のものであることが望まれる。通信類は、学校における道徳教育の理解を促進し、保護者や地域の人々との共通理解を図る重要な手段である。今後は、学校や教育委員会のホームページを活用した広報活動も考えられる。

家庭や地域社会の教育力を組織化する

例えば、保護者の代表、地域の代表、民生・児童委員、近隣の学校の代表などの連絡組織を作り、地域で子どもの心を育てるネットワークづくりを進めることが考えられる。そこで、それぞれの役割を確認し、子どもへのかかわり方の見通しをもつことができる。

(1) 「道徳の時間」を家庭や地域社会に公開する

家庭や地域社会に対し、学校における道徳教育への理解と協力を求めるためには、日ごろから開かれた学校づくりを進めることが大切である。

「道徳の時間」を保護者や地域の方々に公開することは、このような学校の姿勢を示す上で、たいへん有効である。

8日(木)の参観日に、ぜひご参加を!

8日(木)5時間目、5年2組では、道徳の授業を予定しております。『みんなのために』というテーマで、考えたり発表したりする時間です。保護者の方もグループ協議に入ってください、子どもたちの話を聞きながら、アドバイスをいただければと思っています。

子どもたちが、保護者や地域の方の声を聞き、「ともに支え合って」生きているのだということに気づいてほしいと願っています。よろしくお願いいたします。

道徳の授業参観に関する通信文(例)

(2) 家庭や地域の方々の協力を得た授業を工夫する

保護者や地域住民の中には、多様な経験をもっていたり、専門的な知識や技能を身に付けている人などが多くいる。そのような人を発掘し、いつでも協力を得られるシステムをつくることにより、道徳教育を一層充実させることができる。

家庭や地域の方々と連携を図った実践例（第5学年）

時期	主題名 奉仕する喜び	項目	4 - (4)
11月	資料名 「大森浜の美しさを守る」 (自作資料)	ねらい	身近な環境保護に対する自覚を高め、公共のために役立とうとする態度を養う。
展開の概要	<p>気づく：大森浜の写真を見て、気づいたことを発表する。</p> <p>とらえる：たった一人で、毎日大森浜の清掃を行っている人がいることを知る。 さんについて詳しく知る。</p> <p>とらえる：資料を読み、さんの願いや喜びについて考える。 さんが清掃を行ったきっかけについて知る。 さんの願いや喜びを考える。</p> <p>見つめる：自分自身の経験をふりかえり、交流する。</p> <p>つなげる：さんに手紙を書く。</p>		
<p>指導の効果を高めるために ～家庭や地域の人たちの協力を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携を図る・・・事前に保護者に依頼してアンケート調査を行う。(下図参照) ・地域の人材活用を図る・・・地域に住んでいるさんの活動を資料化して学習に生かす。 			

事後に体験活動を行い、意欲を高める

事後に、地域の方をゲストティーチャーとして、教室に招き、話をしてもらう機会をつくる。

市主催の大森浜ゴミ拾いボランティア活動を授業に生かす。

保護者の皆様へ

(略)「自分や友だち、家族のつけた自分のよさ」を受け止め、これからも大切にしようとする態度を育てる」というねらいで道徳の授業を計画しています。お子さんのよいところをご記入願います。(略)

.....

あなたのよいところはズバリ

.....

です。これからもそのよさを生かし、のびのびすごしてください。

< 保護者アンケートの例 >

2 家庭と協力して、温かい人間関係を育てる

家庭は、人格の基礎を形成する場として重要であり、人格形成の第一歩は、家庭における道德教育に始まっている。

子どもは家庭において、しつけを通して道德教育の基礎を身に付け、学校生活の中で、社会性や協調性、社会生活のルールなど、より高度な道德的価値を理解し、道德的実践力を身に付けていく。

学校と家庭がともに補い合い連携しながら、一貫した道德教育を進めたい。

(1) 保護者が道德の時間に参加する機会をつくる

道德の授業への保護者の参加の仕方には、様々な方法がある。例えば、特技や専門知識を生かし、子どもへのメッセージを送る講師の役割として、また、授業の進行に関わる指導チームの一人としての参加の仕方などである。

保護者が参加する道德の授業の実践例(第5学年)

時期	主題名 感謝する心	項目	2 - (5)
7月 (3)	資料名 「みんなのために」	ねらい	日々の生活が、人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに気づかせ、その中で自分が生きていることに感謝する心情をもたせる。
展開の 大要	気づく	:「感謝」に関するアンケート結果を見る。	
	とらえる	資料の前半部分を読み、話し合う。 後半の内容を予想し、発表する。	
	とらえる	資料の後半部分を読み、話し合う。 私がもらった素晴らしいプレゼントとはなにか。(保護者参加) 自分たちの身近な生活の中で、私のようなプレゼントをもらったことがないか。	
	みつめる	:総合的な学習の時間での自分たちの活動をふりかえり、取り組んだときの気持ちを発表する。	
	つなげる	:保護者から寄せられた声や地域の方からの手紙の内容を聞く。	
<p>指導の効果を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携を図る・・・保護者参加型の授業にする。子どもと共に話し合いをしたり、事前にアンケートに協力してもらったりする。 ・地域との連携を図る・・・地域の方から寄せられた声や手紙を授業の中で伝える。 			

保護者が児童のグループに入り、児童の司会のもと、意見や感想を発表する場面をつくる。

3 地域の特色を生かし，地域の人々との触れ合いを大切にした取り組みを工夫する

地域には年中行事，伝統工芸，伝統芸能，民話・伝説などの文化がある。また，それらを支える多くの人々が住み，多様な施設がある。そのすべてが，子どもの心を育てるための貴重な体験の素材となる。

このような地域にある人材や素材を多様に活用し，子どもの道徳性を確かなものにしていくことが大切である。

(1) 家庭や地域社会との触れ合いを深める

学校は，地域での活動や地域の人々が参加できる活動などを積極的に計画し，地域にも進んで協力を求めていくことが大切である。また，地域が主体となって企画するものも多いことから，学校は，地域行事や地域での活動に，積極的に子どもの参加を働きかけ，教師自身もかかわりをもつようにしたいものである。それらの体験を道徳の時間で想起させたり，道徳の時間の指導後の体験活動として行うことによって，さらなる子どもの豊かな心の育成が期待できる。

P T A や生徒会による学校施設を活用した地域行事の企画

市立B中学校では，P T A が主催し，家庭や地域の方々，教職員，生徒らの手による「ふれあい広場」が年に1回開かれている。ボランティア活動を通して相互の連帯感が深まっている。

地域主催のイベントへの参加

- ・町会行事（キャンプ，節分等）への参加

長期休業を利用して町会が行う様々な行事への参加を呼びかけるとともに，地域によっては生徒会の活動と結び付けて，節分等に参加し，交流している学校もある。

- ・函館野外劇への参加

市立C中学校では，校区内に五稜郭公園があることもあり，毎年行われる市民野外劇に主に3年生が参加し，交流している。

職場，福祉施設への訪問

校区内の商店等での職業体験や福祉施設などへの訪問を通じて，子どもを理解してもらうとともに，地域の方々と子どもとの交流が深まるなどの効果も上がっており，多くの学校で実施されている。

(2) 高齢者との触れ合いを深める

高齢者との交流は，子どもの人間的な成長に大きな効果がある。

D小学校では，低学年を対象に地域の高齢者を講師に招き，昔の遊びを教わる取組をしている。たくさんの地域の方の参加の中，子どもが生き生きと活動し，「また来てください。」というお礼の言葉に目を細める高齢者の表情が印象的である。また，老人福祉施設への訪問交流なども，高齢者とのかかわりを通して，人生の先輩に対する敬愛



の気持ちをはぐくむ観点から大変効果的である。